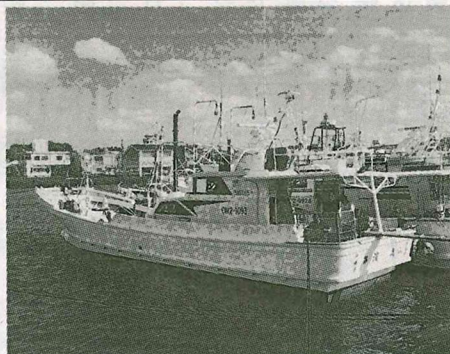
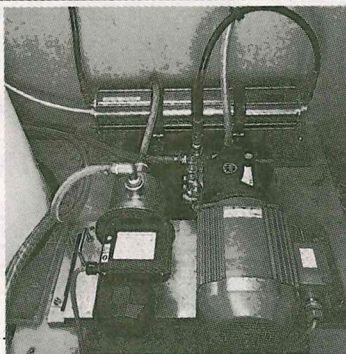




④ソデイカ操業船・第8濱丸
⑤第8濱丸の船内設置状況



沖縄2漁船に 新規納入

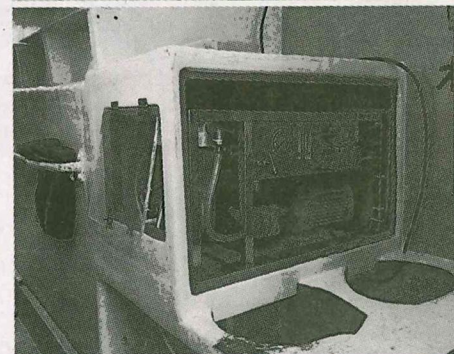
海水淡水化装置

海水淡水化装置(海淡水採用が増えている。装置)のワイズグローバルビジョン(柳瀬良奎社長)は、沖縄県のJF糸満漁協所属のソデイカ漁船・第8濱丸(9・7ト)と、沖縄県近海鮪漁協所属の小型近海マグロはえ縄漁船・第3とも丸(西船と社)の沖縄県内での受注は3隻となる。鹿児島県でも大型マグロはえ縄船での導入されるなど漁船での

能力がある「MYZ E 100型」を導入した。沖縄県のソデイカ漁船に導入は2隻目。「MYZ E 100型」の大きさは幅70センチ、奥行き

近海マグロはえ縄漁船・第3とも丸

第3とも丸の船内設置状況



45センチ、高さ41センチ。重量も約75キロとコンパクトな装置。

第8濱丸が操業する漁場は、2昼夜ぐらいかかる大東島周辺海域が中心。一航海15日程度で8〜9回操業する。濱野大祐船長は「真水は貴重で切らない。これがないと操業はできない。海淡水装置の導入で、この問題が解決できた」と喜んで

いる。これまでは飲み水は出港時にペットボトルを買い込み、清水タンクに400〜600リットル積み込んでいた。しかしこの量では飲み水、食器洗い、シャワー、洗濯、掃除などに安心して使えない。不安、不便の中で15日間の船上生活を過ごしてきたという。

導入船「真水確保、助かる」

「海淡水導入で、必要な時に稼働させて真水が使える。非常時の備えとしても清水タンクに真水をつくってためておけるので安心できる。船のバランスを保つのに役立つ。シャワーにも使えるし気持ちがいい。飲み水の心配もなくなる。使いやすく、装置設置にあたってはほとんど船の改造などの必要がなく、費用時間もかからず助かった」と、濱野船長は語る。そして濱野船長は「ストレスがなくなり、精神的にも楽になったことがよかった」と、心配なく操業に集中できる効果も評価している。

もう1隻の導入船は沖縄県近海鮪漁協所属の小型近海マグロはえ縄漁船・第3とも丸(我如古大船長)。同漁協組合長である我如古清さんの所有船で、今夏、ドック中にワイズグローバルビジョンの海水淡水化装置を導入した。我如古組合長は「従来から設置している造水装置と併用して使っている。清水タンクに貯水しておけるし、急に必要量が増えた時にも対応できる。生活用水のほか、魚槽用に必要な真水にも使える。真水の心配が解消できるので助かる」と期待している。

ワイズグローバルビジョンによると、同社が開発した海水淡水化装置は厚生労働省が定める水道法の基準値をクリア。塩分(塩化物イオン)も99・9%以上除去できるなどの性能がある。

▽ワイズグローバルビジョン(株)・沖縄本社〓沖縄県うるま市勝連南風原5192-47(30号棟)、フリーダイヤル0120-1968-803、東京本社〓03-6427-3697